中学校一年　チャレンジ　話すこと・聞くこと

この音声問題は、第一学年国語問題の冒頭に放送するものです。

はじめに話すこと・聞くことにチャレンジしましょう。今から一回だけ音声問題を放送します。よく聞いて、あとの問いに答えてください。問題用紙は開かないでください。表紙のあいているところにメモを取ってもかまいません。

山下さんの学級では、毎月のテーマを決めて、帰りの会で三分間スピーチを行っています。今月のテーマは「大切にしたいもの」です。山下さんのスピーチの題名は、『水』を大切にしたい」です。山下さんのスピーチの内容やスピーチの仕方に気を付けて聞きましょう。

みなさんは、「水の大切さ」について考えたことがありますか。蛇口をひねれば、いつもきれいな水が出てくるのは当たり前だと思っていませんか。

県外に住んでいる叔母の家族が、わたしの家に遊びにきていたときのことです。朝、歯磨きをしていたら、ちょうどそこを通りかかった叔母に、「水を出したままだよ。」と言われました。そのときはじめて、水を出したまま歯を磨いていたことに気付いたのです。叔母は、「わたしの住んでいるところは、よく水不足になって断水するのよ。熊本は水がおいしくて、豊富だけど、出しっぱなしはいけないよ。もったいないから、口をすすぐときだけ水を出したほうがいいよ。」と、わたしに言ったのです。

これまで「水は大切にしなければならない。」ということは、ちゃんと分かっているつもりでした。でも、実際の行動は、違っていたのです。

そのことを母に話したら、母から「ほかにも水を無駄に使っていることはないかな。」と言われ、考えてみました。すると、茶碗を洗うときにずっと水を出したままにしていたこと、学校の掃除の時間にバケツに水があふれても水を入れていたこと、シャワーを浴びるときにお湯をこまめに止めていなかったことなど、無駄な使い方をたくさん見つけました。気付かないうちに、水を無駄にしていたのだなあと思いました。

先日、テレビを見ていたら、外国の様子を伝える番組が放送されていました。その中である国の女の子が大きな水がめを持って、三十分ほど歩いて水をくみに行く様子が映っていました。テレビのレポーターの質問にその女の子は、「毎日水をくみに行ってるの。」と笑顔で答えながら、くんできた水を大切に使っていました。わたしは、女の子の笑顔を見ながら、蛇口からきれいな水がいつも出てくることを当たり前だと思って、何も考えずに水を使っていた自分がなんだか恥ずかしくなりました。わたしは、今、「水を大切にしよう。」と思っているだけではなく、まず、自分にできることから実行しようと思っています。そして、さらに、周りの人たちにも呼びかけていこうと考えています。

これで、わたしのスピーチを終わります。

放送はこれで終わりです。

それでは、問題用紙を開いて始めてください。